



企業活動において、ラインでない労働安全衛生管理を理解していただく為に、事業者・管理・監督者には、事業を成し遂げようとする人物の形に当てはめて説明しております(人物は被説明者が共感する人なので色々ですが、今回は、上野公園の西郷隆盛を企業体としました。蛇足ながら、この場合、連れの薩摩犬ツンは考慮されません。):

説明:

企業には、大岡越前「三方一両損」ではなく、[近江商人](#)・中村治兵衛の強調した「三方良し」の哲学が求められる。すなわち、「買い手良し」顧客満足(品質 Quality、コスト Cost、納期 Date)、「売り手良し」従業員満足(安全 Safety)、「世間良し」社会満足(環境 Environment)の担保が要求されま

す。「近江泥棒・伊勢乞食」の例えのごとく、近江商人の治兵衛は他国への行商が商売なので、他国での摩擦を避けることを重要視し「世間良し」と評価したのですが、ISO 統合マネジメントシステム(ISO9000, ISO14000, OHSAS18000 の統合)を江戸時代に構築していた先見性には頭が下がりますネ)

企業活動の安全面の下支え(両足)として、安全管理と労働衛生管理が左右の足として存在します。安全管理には災害要因となる不安全行動と不安全状態を取り除く為の 5 本の趾(4M と教育、すなわち、人 Man+機械 Machine+方法 Media+管理 Management 並びに教育)が必要とされ、具体的には、1. 総括・統括管理(コンプライアンス、リスクアセスメント・マネジメントシステム)、2. 適正配置、小集団活動、3. 機械安全、4. 作業手順、点検、非定常作業(異常・災害)、5. 教育です。また、労働衛生管理も5本の趾(5 管理、すなわち、1. 総括管理、2. 作業環境管理、3. 作業管理、4. 健康管理、5. 教育)が重要である。

どちらの足が悪くても、企業活動に支障をきたすものであり、企業の社会的責任 (Corporate Social Responsibility, CSR)が問われる。すなわち、生産と安全は反比例する別個のものでなく、安全を織り込んだ経営損失防止という先取りの管理体制の確立が重要なのである。

西郷隆盛以外に、女性の多い職場などでは、下のような弁慶の博多人形や三千院の童地藏なども使えますよ。皆さんで、作ってみてください。



私は、長岡地区での作業主任者・監督者指導用には、高校の先輩？である、山本五十六連合艦隊司令長官を使わせていただいております。というのは、自分自身の部下の指導における失敗を通して、RSTの12の鍵の中で、最も重要なものがリーダーシップであろうと思うようになったからです・・・上

述の安全の説明後に、山本五十六の「やってみせて、言って聞かせて、やらせてみて、褒めてやらねば、人は動かず」の言葉を引用して、受講生である職長・監督者のリーダーシップの動機作りの説明をするからです。



事業者

営業

製造

衛生 5 管理

総括管理

作業環境管理

作業管理

健康管理

教育

安全管理

管理

機械

人

方法

教育

企業体 = 品質 Q + コスト C + 納期 D + 安全 S + 環境 E

わつて見せて

言つて聞かせて

なつかしく見せよ

ほめておこなは

人は動かさず

七五三十一六